

特集

狩野川台風から六十五年



(写真上) 台風直後の熊坂地区から大仁地区方面 (写真下) 半分が流された大仁橋を渡る人々の列
※特集に掲載した写真は全て伊豆の国市郷土資料館蔵

Vol.9
2023年8月

伊豆の国市郷土資料館

資料館だより

目次

- 特集 … (1~3)
- R5年度上半期
- 企画展イベント … (4)
- インフォメーション … (4)

昭和三十三年（一九五八年）九月二十六日に発生した台風二二号は伊豆半島に大量の雨を降らせ、その大雨は濁流となって田方平野に甚大な被害をもたらしました。後に「狩野川台風」と呼ばれるこの台風の発生から、今年で六十五年が経ちます。

狩野川台風の概要

狩野川台風は九月二日にグアム島東方に発生し、勢力を拡大しながら北上しました。上陸時は中心付近の最大風速七〇メートル、中心気圧九四〇ヘクトパスカルという当時は戦後最大の台風になっていました。

この台風の特徴は、短時間に大量の雨を降らせるところです。狩野川一帯は一時間に八〇〜一二〇ミリという猛烈な豪雨となりました。降った雨は一気に狩野川へと流れ込み、水圧に耐えきれなかった堤防が各地で決壊し、住民たちの生活圏内に襲いかかったのです。

各地で堤防が決壊した理由として、狩野川台風の一週間前に来襲した台風二一号による降雨の影響で、元々地盤が緩くなっていたことが挙げられています。白山堂地区では九月一七日の台風二一号の大雨により地盤が緩み、堤防が決壊寸前になっていました。追い打ちをかけるように、狩野川台風の大雨によってついに決壊してしまいます。

台風が九月二六日の朝九時頃に八丈島の西南九

〇〇キロに到達すると、伊豆半島では前線に伴った強い雨が降り始めました。特に伊豆市湯ヶ島周辺では一時間に一二〇ミリという猛烈な雨が降り続けました。

それ以降も大量の雨が降り続き、二〇時頃から狩野川の水位が急激に上昇し、遂に二二時頃に計画高水位を超えてしまいます。堤防が次々と決壊し洪水が民家を襲いました。しかし零時頃になると空は晴れ、月が煌々と光っていたといいます。

台風による甚大な被害

狩野川台風は洪水の発生が夜中だったこともあり、人的被害が深刻でした。台風による死者・行方不明者は八五三名、被害家屋は六七七五戸に及びました。

台風の降雨によって決壊した堤防は一四か所を超えました。特に被害が大きかったのは伊豆市熊坂地区、伊豆の国市白山堂地区、御門地区、南條地区です。

南條地区では狩野川がちょうど湾曲した場所が決壊し、伊豆長岡駅から葦山の方面に水があふれ出しました。濁流が狩野川のカーブを曲がり切れなかったことと、千歳橋の橋げたに引っかかった大量の材木等が川をせき止めたダムのようになり、側面から水があふれたことの二点が重なり、大きな被害となりました。

台風の後、伊豆長岡駅の近くで流されず残った建物の壁面についた水染みの高さ測ってみると、濁流の水位は二メートル八五センチまで到達して

台風発生から一夜明けた二七日、すでに自衛隊や警察官、消防団による救助活動が行われていました。狩野川台風による被害状況は新聞に大きく掲載され、全国に知れ渡りました。

全国から支援助物資や人員派遣があり、大変助けられたと当時の記録に残っています。自衛隊や海上保安庁、消防団、青年団、婦人会、学生、警察官などのべ二五万五千人もの人々が救援に訪れ、復興を支えました。

電話は寸断されていましたが二七日から復旧作業が始まり、二八日には復旧しました。電力は十月三日には市内全域に送電が可能になり、伊豆箱根鉄道は十月二日に三島〜伊豆長岡間が開通、五日に大仁まで、七日に修善寺まで開通しました。十月六日からは徐々に小中学校・高等学校が再開しました。郵便は十月一日には道路の復旧に伴って復旧しました。

発見された遺体は市内では葦山村公会堂、最明寺、大仁小学校講堂に収容されました。

その後、犠牲者を悼む合同葬儀が二回行われました。一回目は「狩野川台風



千歳橋に流れついた大量の材木を撤去する自衛隊。

大水害からの復興

合同慰霊祭」で昭和三十三年（一九五八年）一月三〇日に葦山小学校講堂にて、遺族、県知事、市町村長が出席して行われました。二回目は「狩野川台風殉難者合同慰霊祭」で昭和三十四年（一九五九年）九月二五日、一周忌として当時の大仁中学校講堂にて遺族、県知事、県議会議長が出席して行われました。

狩野川台風のその後

狩野川台風が引き起こした大水害は治水への機運を高めました。

流路が蛇行している狩野川は昔からたびたび氾濫し人々を悩ませており、それまでも多くの治水工事を重ねていました。江戸時代の終わりごろには江川英龍が狩野川の水を海に流す計画を立てていました。これは実現しませんでした。その後も狩野川放水路の計画は続けられています。

昭和二六年から放水路建設が始まりますが、用地問題等で課題が多く、工事が難航します。そんな中発生した狩野川台風は放水路の必要性をより知らしめるものとなり、放水路計画を大幅に更新しながら昭和四〇年七月に竣工します。

また、大量の水が流れることで、川が蛇行した箇所はどうしても氾濫しやすく、昔から悩まされてきました。そこで深沢川との合流地点である神島から大門橋までの流路を変更する計画が持ち上がります。直線化することで氾濫を防ぐ狙いがありました。河川改修工事が進められ、昭和四一年に竣工します。まさにこの郷土資料館がある中央

いたことがわかりました。

狩野川沿いの江間地区、古奈地区や、元々土地が低い長崎地区も大雨によって床上浸水の被害を受けました。千歳橋西口から五〇メートルほど進んだ辺りから長岡南小学校あたりの古奈地区は水に浸かってしまったため船で移動したといわれています。

大仁橋と大門橋は流されましたが、千歳橋は流されませんでした。しかしそれは同時に思わぬ形で悲劇をもたらしました。溜まった材木が水をせき止めてしまい、さらに上流から家屋ごと流された多くの人が千歳橋にぶつかった衝撃で川に投げ出され、犠牲になりました。

台風の発生が九月下旬ということもあり、稲は刈り取り寸前まで育っていましたが、被害が大きかった地域の水田は水没してしまいました。特に大仁地区では家畜が大きな被害を受けました。急激な水位の上昇により人が逃げるだけで一杯の中、牛や豚が逃げ遅れ、多くが行方不明になりました。



台風直後の白山堂地区。家屋が流され、田畑は泥水に浸かってしまった。

図書館や、道の駅いずのへのその周辺は狩野川の旧河道にあたります。

さらに大門橋から一〇〇メートルほど下流にあった江間堰は長い議論の末、昭和四八年に撤去されました。その後も堤防のかさ上げを継続するなど洪水を防ぐための工事が行われ、狩野川を取り巻く環境は少しずつ変化し現在に至っています。

台風は農業に大きな影響を与えました。多くの水田が土砂流入によって収穫不可能となった葦山村周辺ではその後、土地改良事業が行われ、耕地整理がされて農業の機械化につながっていきます。

狩野川はたびたび氾濫し、近隣住民を悩ませてきました。しかし同時に、人々の生活や農業、産業に欠かせない水をもたらす恵みの川でもあります。人々は川と共存して暮らしてきました。

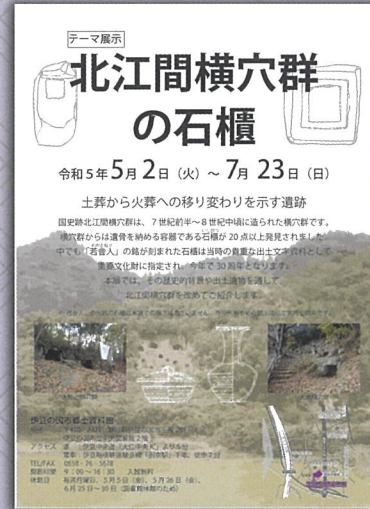
狩野川台風の発生から六五年が過ぎ、狩野川台風を知らない世代が増えてきました。狩野川台風を経験した人々、その後の復興に尽力した人々がいてこそ、今の生活があることを忘れてはなりません。



半分が流された大門橋。仮橋がかけられている。

令和5年度上半期 企画展・イベント

企画展『北江間横穴群の石櫃』
令和五年五月二日～七月二三日

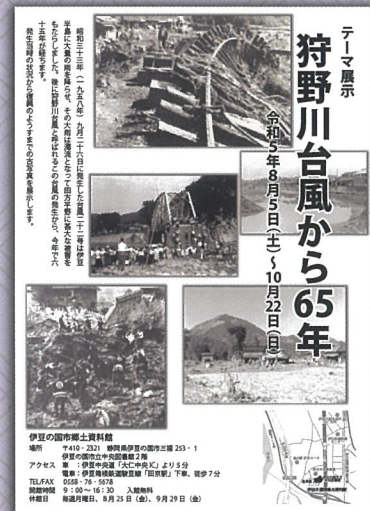


🌀 火起こし体験を開催
しました！

葦山めぐりに訪れる近隣小学校を対象とした火起こし体験が今年度も実施されました。
マイギリ式火起こし器を使い、摩擦で火種をつくり、乾燥させたヨモギの葉とシユロの皮を用いて火を起こす方法で、火起こしをボランティア団体「火起こし隊」のメンバーから教わりながら、班員と協力しながら火をつけていました。



企画展『狩野川台風から六五年』
令和五年八月五日～十月二二日



🌀 夏のワークショップ
を開催しました！

七～八月にかけて、夏のワークショップ「勾玉づくり教室」はにわづくり教室を開催しました。小学生から大人まで大勢の方が参加し、ほとんどの回が満席となりました。参加者は思い思いの形で勾玉やはにわを完成させました。



施設案内

インフォメーション

開設時間 午前九時～午後四時三〇分
休館日 月曜日 毎月最後の金曜日
年末年始(十二月二十八日～一月三日)
六月最終週の館内整理期間
(図書館休館日に準じる)

所在地 静岡県伊豆の国市三福二五三-1

電話 〇五五八・七六・五六七八 (FAX同じ)

周辺地図



伊豆の国市郷土資料館 資料館だより 319
編集発行：伊豆の国市郷土資料館 令和五年八月二十日
印刷：いさや印刷工業株式会社